

ふじえだ教師塾

大学生、講師・社会人塾生閉校式



2月からスタートした大学生、講師・社会人の教師塾の閉講式を行いました。閉講式では村田久典先生の講話をうかがい、「自己指導力を育むこと」「生徒指導が機能する授業」「子ども主体の授業」の大切さを学びました。藤枝市が目指す授業「授業で人を育てる」について深く考える機会となりました。校長先生方には面接指導等ご協力をいただきありがとうございました。



閉講式では小山教育監より「教師っていいなあと思う。素敵な仕事だと思う。教師はずっとその子の人生にかかわっていきける。素敵な子どもたちが皆さんを待っています。」と励ましのお言葉をいただきました。

村田先生のご講話より

1 学校って何を学ぶところですか

- 新しい知識や技能 考え方 体力 ○基本的な生活習慣
- 道徳性 ○人間関係（友だちとの接し方 思いやり）
- 学びに向かう力 ○自分で考える力、自己決定力
- 判断力 etc

学校は小さな社会 「自己指導力」を学ぶ

この時、この場面でどういう行動が正しいか自分で判断し実行できる力
教師の思いや指示により子どもが動いているだけで満足している教師ではいけない
子どもが本気で考え、試行錯誤する中で見つけていく活動、授業を常に考える教師に

2 授業の主たる目的

新しい知識や考え方・学習能力を獲得したり、技能などを身につけたりする機会

「人格の完成」「生きる力」は知識・技能・体力面だけで形成されていない。徳性や社会性も大きな要素⇒授業で習得すべき

生徒指導の機能を授業に生かす 「自己指導力」を育てる

3 「生徒指導」ってどんな指導ですか

「決められたことを決められたとおりにやりなさい」というところに生徒指導の機能はない
生徒指導5つの柱

- ・個々の子どもに「自己決定の場」を与えること
自分で考えて、決定して実行する経験を通し自己指導力を育てる
- ・相手とのかかわりで行動する場
自分のやりたいことと友だちがやりたいことが違う中で、相手の主体性を大切にしながら自己実現するにはどうするかを経験から学ぶ
- ・存在感をもつことができる場
学級の中に自分の居場所がある、大切にされていると感じられるためには、子どもたち自身もそのよさを感じ実行することが大切
- ・子どもがその発達の可能性を最大限に発揮できるような場
可能性を発見し発達させる教材や活動や授業展開の用意 教師の力量
- ・人間的ふれあいが感じられる場を大切にする
どの子にもどんなときにも相手と人格を認め、相手の身になって自分の行動を決定していく場
理屈でわかっているでも実際の授業で「生徒指導を機能」させることは難しい！？
教師の「教える」「わからせたい」という意識⇒「自己決定」の場を奪っている
授業をコーディネートとする（指導要領）
 - ・場の設定（自己決定の場 相手とかかわる場 調べる・考える場 等）
 - ・思考するための材料の準備



- ・目指す授業について子どもと相談

子どもがかかわり合いながら、試行錯誤し解決していく授業を教師自身が楽しいと感じるか

4 自分の教育観、授業観をもつ

学習指導要領、将来の社会、校内研修、先輩の考え方、子どもの実態、自分の経験などから

例えば 「将来、自立できる子どもに育てたい」

- ・教師の思いを子どもと共有する機会の設定
- ・教師が教える⇒子ども同士で解決する機会の設定 「どうしたらいいと思う？」
- ・教師が指示を出す⇒自己決定する機会の設定 「あなたならどうしたい？」
- ・自分勝手な自立⇒相手とかかわる 思いやる機会
- ・「子どもに任せればいい！」⇒導く設問、流れ 考えるための材料の用意
- ・授業の考え方と生活の考え方的一致 等

5 一人一人、まったく違う存在である

魅力ある学級づくり

すべての子どもが認められ一人一人に心の居場所と役割がある教室

学ぶ楽しさ、わかる授業

そのためには、全員が同じ目標、指導過程では無理

支援を必要とする子の増加⇒一人一人の得手不得手の理解と学級内での共通理解

将来の子どもにとって本当に意味のある教師を目指しましょう



塾生の感想

・今日のお話を聞いて「学校は小さな社会である」こと、「一人一人全く違う存在である」ことを改めて学ぶことができました。子ども一人一人の思いを大切にし、子どもたちが自ら「やりたい」「やってみたい」と思える瞬間を大切にしていきたいと思いました。そして教師は子どもの思いや挑戦に全力で向き合い、一緒に成長していくことが必要だと思いました。

・「自己決定」という言葉がとても印象的でした。子どもが主体的に判断し行動するためには「自分たちで自分たちの行動を決められる」という気持ちをもつことが大切だと思いました。子どもが当事者意識をもてることはもちろん、「自分たちに任せられている」という教師の前向きな期待を伝えられることも「自己決定の場」を与える大きな意味であると思います。



教師塾を振り返って

・途中から入塾させていただきましたが、毎回の教師塾が本当に楽しく、勉強になることばかりで入塾してよかったと思っています。教師塾での演習や指導を通して子ども主体にして考えていくことが大切だということを学びました。教師は子どもの成長や発達を支える存在であり、子どもにとって何がベストなのかを常に考えていく必要があると思います。グループで話し合う演習では多くの人の教育に対する考え方を聞くことができたのでとても勉強になり、自分の考えを深めることができました。面接シートの添削では何度も深掘りして質問していただくことで自分の中の考えが明確になり整理することができました。教師塾で学んだことは現場に立ったときに必ず生きていくと思います。常に子ども主体で考え、授業を通して子どもを育て、常に学び続ける教師になれるよう努めていきます。

・教師塾に通う中で、授業は決して知識を教えるだけではなく、子どもの自信を引き出したり、子どもが自己決定したりと子どもが輝くことができる場であると強く感じました。子どもたちがお互いの思いを大切に助け合える学級をつくるためには、教師のあり方が非常に重要であると気づきました。私はふじえだ教師塾で教師としてだけでなく、人として大切なことをたくさん学ぶことができました。